
インクルいわてとは

**家族のカタチにかかわらず、だれもが生き生きと暮らしていける
包摂された社会 (Inclusive Society) の実現に向けて、
一緒に活動します!**

2011年3月11日 東日本大震災はこれまでの社会のあり方を根底から再構築する必要があること、また、家族のカタチや生き方が一瞬にして変わるということも私たちに突き付けました。

更に、日本のひとり親世帯とその子どもの貧困率の高さは、ここに日本社会の課題や矛盾が凝縮されていることを表していて、差別や偏見は、ひとり親家族の喪失感や孤立感を増幅させ、新しい生活へと踏み出す一步を阻みます。しかし私たちは、社会の中で孤立しがちなひとり親や子どもたちが、周囲のさまざまな支援やつながりの中で、明るく元気に大きく変わっていく姿を知っています。

その人に寄り添い、支えあうしくみがあれば、人はいつでも、自分の人生を自分で切り開ける力に気づき、その力を取り戻すことができます。私たちはすべての子どもたちが希望を持って育ち成長していけるよう、寄り添い、耳を傾け、取りこぼさず、つながりや生きがいを回復することで、すべての人が社会の一員として包摂されるよう「社会的包摂」(Social Inclusion = ソーシャル・インクルージョン) の理念を団体名に取り入れました。

岩手に生まれたインクルージョンの輪は、小さくても木の年輪のようにひろがっていくよう、そして岩手が包摂のモデルとなるようなやかな活動を目指しています。

- ・ インクルいわてホームページ <http://includate.blog.fc2.com>
- ・ インクルこども食堂ホームページ <http://inclu-kodomo-shokudou.jp/>
- ・ インクルこども食堂フェイスブック <https://www.facebook.com/inclu.syokudou>

主な実施事業

こども食堂をはじめ、ひとり親家族支援に関するシンポジウムなどの啓発活動、ひとり親支援者の養成講座開催、就労支援事業（リクルートスーツの貸出など）、被災者支援、ひとり親のお母さんたちが集い語り合う場の提供、子ども支援活動など、ひとり親のお母さんや子どもたちに寄り添う様々な活動を実施しています。

平成27年度 活動実績

■ 子ども・子育て 親のエンパワメント事業

- ・インクルカフェ: 4回開催
(東日本大震災被災者内陸避難ひとり親家庭向け)
10月～1月 岩手県男女共同参画センター共催実施
- ・おひさまくらぶ: 3回開催
6月「岩手大学エコキャンパスツアー」
10月「岩手大学エコキャンパスツアー」
12月 カフェ&おにぎり作り体験 /クリスマス会
- ・食堂:こどもの居場所づくり事業(6回開催)
東京 /関西の先進地視察を実施

■ 就労・物資支援事業

- ・就労支援
(リクルートスーツ、セレモニースーツのレンタル)
- ・制服リサイクル 制服や、学用品の交換会

■ 人材育成事業

- ・ひとり親家族支援者養成セミナー
(11月～1月 3日間 150名参加)

■ 委託事業

- ・岩手県男女共同参画センター 岩手県委託事業

平成28年度 活動実績

■ 子ども・子育て 親のエンパワメント事業

- ・こども食堂
1月～3月 月2回開催
4月～12月 月1回開催
※プログラム
相談(親子)イベント(子ども・母親) /読み聞かせ /
バーベキュー /クリスマス会 /学習 /生活習慣

■ 就労・物資支援事業(こども食堂でも実施)

- ・就労支援
(リクルートスーツ、セレモニースーツのレンタル)
- ・制服リサイクル
制服や、学用品の交換会 ランドセルお渡し会

■ 委託事業

- ・岩手県男女共同参画センター 岩手県委託事業
- ・いわて内陸避難者支援センター 岩手県委託事業
- ・地域センターいわて(被災者見守り相談支援事業)
社会的包摂サポートセンター委託事業

主な政策提言活動

政策策定に関わる場に有識者として情報提供を行うほか、講演、インクルへの視察の受け入れ等を通し、子ども・子育て・親のエンパワメント事業や就労・物資支援事業、人材育成事業に共通してみられる課題や解決策について、広く提言を行っています。特に、インクルが目指すこども食堂のあり方とは、一般的な子ども食堂の機能に加えて、子どもたちとその親を包括的に支援する「包括的支援機能」を持つものです。そこには、食を提供するだけでなく、ひとり親に向けた生活に必要な情報提供や相談の場として、または、子どもたちや親のエンパワメントを目指した取組の場として、機能させることを目標としています。詳しくは、〈事業目標：包括的支援機能を持つ子ども食堂の実施〉をご参照ください。

平成27年度活動実績

■講演・政策提言・視察受入など

- ・秋田県社会福祉協議会 子どもの貧困を考える県民フォーラム
- ・岩手経済同友会 企業経営委員会
- ・岩手大学男女共同参画推進シンポジウム「多様性を尊重した岩手の復興防災を考える」
- ・厚生労働副大臣、厚生労働省社会・援護局 生活困窮者自立支援室長 来所
- ・子どもの貧困対策センター「あすのば」交流会／意見交換会in 仙台
- ・3.8国際女性デー 岩手県集会
- ・自民党本部 一億総活躍社会に関する意見交換会
- ・第58回日本弁護士連合会 人権擁護大会 第1分科会「女性と労働」
- ・内閣府 一億総活躍推進本部会議
- ・盛岡市地域福祉計画推進アドバイザーボード会議
- ・WAW2015女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム・ハイレベルラウンドテーブル

■広報活動

- ・NHK 週刊ニュース深読み「2人に1人 どうする?」ひとり親の貧困」出演
- ・通販生活2015年秋号 日本の貧困処方箋 第3回掲載(カタログハウス)
- ・東洋経済オンライン、YAHOO!ニュース

平成28年度活動実績

■講演・政策提言・視察受入など

- ・岩手経済戦略会議2016 岩手経済同友会
- ・岩手県男女共同参画サポーター養成講座 遠野市
- ・いわての子どもの貧困対策推進計画出前講座 岩手県教育委員会事務局宮古教育事務所
- ・いわての子どもの貧困対策推進計画出前講座 岩手県児童館／放課後児童クラブ協議会
- ・いわての子どもの貧困対策推進計画出前講座 久慈市要保護児童対策地域協議会研修会
- ・いわての子どもの貧困対策推進計画出前講座 社会福祉法人経営者協議会
- ・いわての子どもの貧困対策推進計画出前講座 洋野町民生委員児童委員協議会
- ・インターシティミーティング花巻 花巻ロータリークラブ
- ・北広島市議会議員団 視察来所
- ・熊本地震からの復興を考えるシンポジウム 内閣府／復興庁
- ・古館公民館視察来所
- ・子ども食堂サミット2017 子ども食堂ネットワーク
- ・子どもの貧困対策全国キャラバンIN山形 子どもの貧困対策センターあすのば
- ・こどもの貧困レベルアップ研修会 子どもの貧困対策センターあすのば
- ・全国女性会館第60回全国大会in大阪 分科会3困難な状況にある女性のための支援 全国女性会館協議会
- ・第5回日本公衆衛生看護学会学術集会ソーシャルデザインセミナー講座
- ・第53回社会福祉セミナー 社会福祉が目指す自立支援とはなにか 鉄道弘済会
- ・多機関の協働による包括的支援体制構築モデル事業相談支援包括化会議 盛岡市社会福祉協議会
- ・八戸学院短期大学 子ども食堂講座 八戸学院短期大学
- ・福祉活動推進協議会視察研修 前沢区地域福祉推進協議会
- ・平成28年度男女共同参画／少子化関連研究活動の支援における顕彰事業 活動報告 保土ヶ谷基金
- ・平成28年度米百俵賞 受賞 長岡市教育委員会
- ・盛岡市8020歯科保健大会 盛岡市歯科医師会／盛岡市
- ・もりおかユースター記事掲載 盛岡市市民部男女共同参画青少年課
- ・山形県議会議員団 視察来所

インクルこども食堂 事業概要

「食」はすべての人の「生きる」を支え、
子どもを守り、人と人をつなぐチカラ

社会的背景と事業目標

社会的背景

① 子どもの貧困とひとり親家庭

子どもの貧困は世帯の貧困の問題である。子どもの相対的貧困率は1990年代半ば頃からおおむね上昇傾向にあり、2012年には16.2%となっている。子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は15.1%であり、そのうち、一人親世帯の相対的貧困率が50.8%と、おとなが2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっている。^{*1}

② 困窮したひとり親と「つながる」ことの困難さ

ひとり親家庭の支援は、子どもだけの支援だけでなく、親の支援をセットにして行うことが極めて重要である。しかし、困窮していればしているほど、情報不足により支援をどこに求めてよいかかわからず、支援者につ

ながることが困難である。また、ひとり親、とりわけシングルマザーに対するスティグマにより、支援を求めることを躊躇する親も多い。

③ 盛岡市の被災者の状況

インクルいわては、東日本大震災後に盛岡を中心にひとり親の支援活動をしてきたが、震災から5年たち、今まで支援してきたひとり親からは支援を受けているもどかしさや、住宅支援の打ち切りに伴う生活への不安があると同時に、抱えている根本的な問題は解決していない。

ひとり親家庭の多くは沿岸部に戻る予定はなく、盛岡で生活を築いていく決意を固めている。しかし、自分の家族以外に頼れる人はまだ少なく、孤立する傾向にあり、今後の困窮が心配される。また、避難してきた家族にとって、こどもの成長にともない教育支出があがってい

くなか、心身の健康状態、情報の獲得、人とのつながりなどがますます重要となっている。

事業目標:

包括的支援機能をも

持つこども食堂の実施

全国各地で実施されている子ども食堂の多くは、子どもにとって安心でき、親以外の他者（食堂ボランティア、学習ボランティアなど）との関係を築ける居場所という機能がある。インクルいわてでは、ひとり親やその子どもが地域で生きていく仕組作りの一環として「こども食堂」を定義し、一般的な子ども食堂の機能に加えて、①相談対応が出来ること（スタッフやひとり親のピアサポーターによる相談対応や情報提供）、②孤立の緩和（会場となっている施設の高齢者や地域のボランティアが集うことにより親

子ども様々な人と接し関係を作ることができる)、③主体性を持った関わりによるエンパワメント(参加者である子どもや親が自らこども食堂の場づくりに主体的に関わることができる)、④地域の理解促進(ボランティア活動や食材の寄付

等、地域の人々が関わることにより、子どもやひとり親の貧困についての正しい知識や関わりを啓発する場になる)、という機能をもつこども食堂を実施することで、子ども達とその親を包括的に支援することを目標としている。

さらに、このようなインクルイワテ型のこども食堂が盛岡市および岩手県の他地域で展開され、こども食堂を起点にひとり親家庭が地域とつながりながら暮らしていけるような環境を構築することを目標としている。

※1 内閣府「平成27年版 子ども・若者白書」第3章生育環境 図表28 子どもの相対的貧困率より

※「こども食堂」表記について…本報告書では、インクルイワテが実施するこども食堂を「こども食堂」と表記し、一般的な意味でのこども食堂は「子ども食堂」と表記する。

インクルこども食堂 概要

1. 実施体制

- **スタッフ:** 統括／食堂／相談担当各1名、調理スタッフ1名、ボランティア
学生ボランティア… 専攻は多様(福祉／教育／食／農／法／幼児保育・地域政策 その他)
市民ボランティア… 地域の方々 ひとり親支援者養成講座修了生
- **会場:** デイケア施設(盛岡市フキデチョウ文庫)、その他要望により野外や保育園などで出張開催
- **開催頻度:** 2016年1月～3月は月2回開催、4月～12月は月1回開催、2017年1月以降は月3回開催
- **広報:** ブログ、こども食堂ホームページ、こども食堂フェイスブック
チラシ配布(市役所／保育園／幼稚園／社会福祉協議会／公共施設／支援団体など)
- **参加者:** 子ども、親、東日本大震災の避難者、単身高齢者など地域の方々
毎回平均30名以上
- **参加費:** 無料
- **食材:** 主に地域の民間企業からの寄付や、食料支援団体からの支援、個人からの食材寄付など
- **プログラム:** 食堂、学習、遊び、相談、読み聞かせ、地域交流、しごと体験など
- **その他:** 制服／学用品リサイクル／スーツ無料レンタル／ランドセル提供コーナーなどを設置
- **活動資金:** 盛岡市子ども子育て支援事業補助金(平成29年1月より)、市民／企業からの御寄付